

傾向と対策 2026

[入試科目別傾向と対策]

〔総合型選抜(AO選抜)適性試験型／適性試験プラス型／探究活動入試〕

■英語		4
■数学		6
■国語		8

※傾向と対策作成：河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス

英 語

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
総合型選抜 (AO 選抜)	第 1 問	空所補充問題 (文法・語法、熟語)	やや易
	第 2 問	整序英作文問題 (文法・語法、熟語)	標準
	第 3 問	会話文完成問題	標準
	第 4 問	会話文読解問題	標準

●出題形式

椋山女学園大学の総合型選抜(AO 選抜)では、椋大共通適性入試・探究活動入試の一部として英語が課される。受験科目は、国語、数学、英語の中から2教科2科目を受験当日に試験場において選択する。全問マークシート方式である。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ (リスニングを課さない)

b. 出題内容 (大問構成)

文法・語法の空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの会話文完成問題1題、長めの会話文読解問題1題の計4題 (小問数は20問)

●問題の傾向

第1問は、単文中の空所に適切な語句を補充する形式である。高等学校で習得すべき語彙や表現、文法事項が出題されており、教科書や準拠テキスト、演習問題集と同程度の難易度である。学校での学習が十分に身につけていれば、着実に得点できる問題である。設問そのものは比較的基本的なレベルであるが、選択肢の差が細かいものもあるため、曖昧な理解ではなく、文脈や文構造を踏まえて正確に判断する力が求められる。第2問は整序英作文問題で、単文中に設けられた5つの空所に、5つの選択肢を入れて英文を完成させる形式である。日本語訳がなく戸惑う受験生もいるかもしれないが、第1問と同様、授業で学習したことをもとに解答していけば十分対応できる。単語や熟語の知識だけでなく、主語と動詞の対応、修飾関係、文型などを意識しながら、文の骨格をとらえて組み立てる力が必要になる。第3問は、2人の話者による1往復～1往復半の会話内に設けられた空所を補う形式である。学校の授業ではあまり見かけない口語特有の言い回しや省略も見られるが、会話の主旨を踏まえて、それに沿うような発話をイメージして空所を補いたい。短い会話である分、前後のやり取りに含まれる情報量は多くないが、その分、場面や話者の意図を素早く読み取る力が問われている。第4問は、長めの会話文読解問題で構成されている。文章中の空所補充、下線部の意味に関する設問、内容理解を問う設問などが出題されている。話者それぞれの立場や視点を整理しながら読み進めることが重要であり、多少見慣れない表現が含まれていても、会話の流れが把握できていれば十分に対応可能である。会話文であるため、説明文とは異なり、情報が段階的に提示される点にも注意が必要である。発言の順序や応答の仕方を丁寧に追うことで、内容を正確にとらえやすくなる。総じて、総合型選抜(AO 選抜)の英語は、問題数自体は多くないものの、基礎的な知識の正確さと、会話の流れを踏まえて判断する力とをバランスよく求める構成になっている。教科書レベルの内容を確実に身につけたうえで、実際の場面を意識した英語の運用に慣れておくことが大切である。

●難易度

入試基礎～標準レベルまでで正解できる設問で構成されており、問題数の少なさから、公募制推薦入試と一般入試よりは取り組みやすい難易度となっている。

英 語

学習対策

既習内容を徹底して確認し、定着させることが合格への確実な要因である。高等学校で学んだことや教科書、テキスト、問題集に忠実に取り組み、わからないことやできないものがないようにしておくことは必須である。そのうえで、英語を読む訓練を行っておこう。

●文法・語法の知識を正確に身につけたうえで、試験に臨もう

出題形式は多岐にわたるものの、全大問に共通するのは、正確な知識が要求されるという点である。特に第1問および第2問は、文法や語彙の知識が得点に直結しているため、日頃から品詞や語法などを意識しながら、正確に表現を習得するよう心がけ、得点源にしたい。概して、基礎的な知識が正確に身につけていれば十分対応可能であり、日頃の学習が報われやすい試験だといえる。各分野にわたる幅広い知識が求められるため、学習の際は、ただ正解・不正解を確認するだけでなく、正しい根拠に基づいて解けているかを常に意識しておこう。また、総合型選抜(AO選抜)は問題数が比較的少ないため、1問ごとの比重が大きい。基本事項で取りこぼしをしないことが、そのまま得点の安定につながる。短時間で確実に判断できるよう、学校で学習した文法事項や重要表現は何度も復習し、「わかる」だけでなく「すぐ使える」状態まで定着させておきたい。

●状況を把握したうえで、会話表現を身につけよう

第3問では、単独の短い会話文が出題されている。リード文がないため、話者の短いセリフだけで状況を把握し、適切な選択肢を選ぶ必要がある。その際に重要なのは、選択肢や本文の会話表現そのものを知っていることに加え、それらがどのような状況で用いられるのかまでイメージできることである。例えば、“May I help you?”であれば、店員が客に声をかけている場面が想像できる。表現を覚える際は、単にフレーズの意味だけでなく、それらが使われる状況まで具体的にイメージしたうえで暗記すると効果的である。さらに、会話問題では、発話そのものの意味だけでなく、相手の応答とのつながりを意識することが大切である。「断っているのか」「提案しているのか」「驚いているのか」といった機能を意識して読めるようになると、自然な選択肢を選びやすくなる。普段の学習でも、単語帳や例文集の表現を場面と結びつけながら覚えていくと、実践的な理解につながるだろう。

●実践練習を重ねて、効率的に文章を読み進めよう

第4問の会話文では、語彙や空所補充に加え、本文の内容に合うものを選ぶ問題や、合わないものを選ぶ問題が出題されており、細部まで正確に読み取ることが要求される。その際に重要なのは、接続詞などのディスコースマーカーに着目して話の論理展開を正確につかむことや、話題に対する両話者の立場や考え方を明確に整理することである。また、消去法も有効である。1つひとつの選択肢を丁寧に読み、本文を参照しながら正誤の根拠を明確にすることで、思わぬミスを防ぎ、解答の精度を高めることができる。これらを意識して演習を重ねれば、第4問も十分に得点源となるだろう。また、公募制推薦入試や一般入試でも、問題数こそ3問と総合型選抜(AO選抜)より少ないものの、共通する形式の会話問題が出題されているため、それらも積極的に活用し、本番を意識した演習を行っておくとよい。

数 学

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
総合型選抜 (AO 選抜)	第 1 問	数学 I 数と式／図形と計量	やや易～標準
	第 2 問	数学 I・A 2 次関数／確率／図形の性質	標準

●出題形式

試験時間は 2 科目で 60 分であり、数学にかけられる時間は概ね 30 分である。大問 2 題ですべてマークシート方式であり、解答用紙は、当てはまる数値または適切な選択肢の番号をマークする方式である。解答番号は全部で 22 個あり、数値については、解答が分数になるときは既約分数で、平方根や比の場合は最も簡単な形で解答する必要がある。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

数学 I・数学 A（図形の性質・場合の数と確率）

b. 出題内容

総合型選抜 (AO 選抜) 相大共通適性入試・探究活動入試では大問 2 題の構成が採られており、各大問は 3 小問ずつで計 6 問だった。扱う分野は数と式、2 次関数、場合の数と確率、図形分野が中心である。

第 1 問は小問集合で、多項式の因数分解、無理数の小数部分を扱う計算、円に内接する四角形の辺の長さや外接円の半径を求める図形問題が並ぶ。第 2 問も小問集合で、2 次関数のグラフの平行移動と係数決定、サイコロ 3 個の積に関する確率、直角三角形の内接円の半径といった内容が扱われている。

●問題の傾向

どの小問も教科書の例題から章末問題に相当する水準で、1 問あたりの計算量は抑えられている。各設問は独立した形で完結しており、前の小問の答えを引き継ぐ構造は比較的緩い。一方で、円に内接する四角形の設問や直角三角形の内接円の設問のように、余弦定理・正弦定理や接線の性質といった複数の道具を組みあわせて使う場面も含まれている。基本公式を正確に運用できるかどうか得点の基盤になる。

●難易度

基礎～標準の範囲に収まる出題で、受験頻出の典型問題が中心となっている。計算量が軽く、誘導も穏やかなため、教科書レベルの学習を丁寧に積んできた受験生にとっては全問正解も射程に入る。一方、基本事項の取りこぼしは即座に失点につながるため、穴を残さない仕上げ方が問われる。

数 学

学習対策

●数学Ⅰ・数学Aの内容を満遍なく押さえる

梶山女学園大学の数学は大問2題・計6問という構成で、1つの大問の中でも小問ごとに別々の単元が割り当てられる作りになっている。限られた小問数の中で、どの単元から出されるかは年度ごとに揺れ、ある年は取り上げられなかった単元が、翌年に小問の1つとして登場することも十分にある。1問あたりの重みが大きい試験なので、苦手分野を残したまま本番を迎えると、その単元が出たときの失点がそのまま順位に響く。

学習計画の組み方としては、特定の分野を一気に深掘りするより、数学Ⅰと数学Aの全範囲を何度も学習するやり方が合っている。まずは章ごとに教科書を通読し、例題の理解に抜けがないかを確かめたうえで練習問題へ進みたい。広く浅く、ただし穴を作らないことが、この入試では最大の備えになる。

●マークシート方式の縛りに慣れておく

試験時間に対して小問数は少なくなく、1問に割ける時間は決して長くない。難問を長時間粘って解く試験ではなく、標準的な計算を素早く、正確に片付ける力が問われる試験である。途中の式が合っている、最終の数値を書き誤れば採点されない点もマークシート方式特有の厳しさで、演習の段階から最終の数値を書き切るまでを一区切りとして扱っておきたい。

この入試ではさらに、分数は既約、平方根や比は最も簡単な形で解答するよう指定されている。約分忘れや有理化の省略が減点に直結する仕様なので、日頃の練習から仕上げ方を揃えておく必要がある。時間を計りながら、最後の整形まで済ませて答えに辿り着く演習を積み重ねれば、本番での速度と精度は自然と両立していく。

●図形の定理を引き出せる状態にしておく

図形分野は毎年のように出題されており、しかも1つの定理だけで解き切るといふより、複数の道具を組み合わせて解くタイプの問題が選ばれやすい。余弦定理・正弦定理、方べきの定理、円周角の定理、接線と弦のなす角など、数学Ⅰ・数学Aで扱う図形関連の定理は数え上げると意外に多い。

公式を暗記しているだけでは、本番で「この条件ならこの定理」と即座に動けない。演習のときに、自分が使った定理について「どの条件がそれを呼び寄せたのか」を頭の中で一度言葉にしておくと、道具の選び方が身体に馴染んでくる。条件に応じて使う定理を選べるようになれば、図形問題は大きな得点源に変わる。落ち着いて手順を踏みながら、当日を迎えてほしい。

国 語

出題傾向

入試日程	問題	出典	難易度
総合型選抜 (AO 選抜)	問 1 ～ 問10	今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』	やや難

●出題形式

長文形式の総合問題であり、内容把握・理解等は四肢択一、漢字・表現技法などは五肢択一（一部の問題を除く）のマークシート方式である。1つの大問で構成されており、現代文の範囲から評論文が出題された。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

現代文は評論文のみが出題されている。古文・漢文は出題されていない。

b. 出題内容

評論文形式の現代文が1題出題され、2026年度は「オノマトペ」の経済性についての考察を行う文章であった。オノマトペという身近な言葉をテーマとする文章であるが、多義性や換喩・隠喩といった表現技法を交えて専門的な説明がされるため、一定以上の読解力を要するものであった。

●問題の傾向

設問数は10問（マーク数18）で、文字数は約3,400字である。設問内容は、漢字、漢字の構成、表現技法（換喩・隠喩）、文の空所補充、傍線部の内容説明、内容一致（不一致）など。いずれも現代文入試の定番問題であったが、文章のテーマに沿った表現技法（換喩・隠喩）の設問が複数見られたことが特徴的であった。

●難易度

2026年度の総合型選抜（AO 選抜）は、「オノマトペ」という身近なテーマの文章であったが、先述のようにオノマトペの多義性や換喩・隠喩といった表現技法についての専門的な説明を理解しなければならず、読解に労力を要する文章であった。設問においても文章で説明された表現技法の特徴をもとに合致するものを選ぶ問題が複数出題されており、事前に対策を行っていなかった受験生には難しく感じられたかもしれない。内容説明や内容理解を含め、設問についてはいずれも標準的な難易度であったが、文章の内容を考えると全体としての難易度は「やや難」である。

国 語

学習対策

●長文を読み解き、筆者の主張をとらえよう

大学入試では、年度などによっても差異はあるが、3,000～5,000字程度の評論文を読み解く練習が必須である。本文を読む時間・選択肢を分析する時間など、自分なりの時間配分を決め、1大問に費やせる時間を想定しながら読む練習をしよう。問題集の文章を読むのもよいし、新書を5,000字程度のまとまりごとに読んでいくのもよい。その際、ただ漫然と読むのではなく、文章構成や筆者の主張をとらえることが大切である。評論文の筆者は自分の主張を伝えるために文章を書いているが、それをわかりやすく伝えるために、具体例をあげたり、自分の主張と他者の考えを対比させたり、比較したりしている。評論文を読むときには、まず冒頭部分から話題（文章のテーマ）をとらえ、筆者の考えと具体例、筆者の考えと他者の考えといった区別をしながら読み、筆者の論の展開を正確に把握するようにしよう。これらを押さえておくと、設問にも答えやすくなる。

●幅広く国語の知識を身につけよう

梶山女学園大学の入試では、漢字や表現技法など、知識を問う設問が出題されている。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組み、評論文で頻繁に用いられる語句などは意識的に覚えておくべきである。また普段の生活や読書を通して、知らない言葉や事項に出会ったら、こまめに辞書や国語便覧で調べるなどして、語彙力や知識を身につけるよう心がけたい。漢字の問題集に取り組む際も同様である。

●マークシート方式の問題に慣れよう

設問はすべてマークシート方式による選択式である。選択肢の中から正しいものを選ぶ練習のために、大学入学共通テスト対策の問題集やマークシート方式の私立大学対策問題集に取り組もう。選択肢の中には、ほんの一部分だけが本文の内容と違ったり、本文からは読み取れない内容が含まれていたりする場合がある。迷ったときには常に本文に立ち戻り、本文と選択肢を照らしあわせて判断するようにすること。また、本文の分量も設問数も多めであるため、過去問に取り組んで、時間配分の練習をしておくといよい。マークシートにマークするときには解答番号を確認することも習慣づけておこう。

●社会問題に関心を向け、新書の読書を

梶山女学園大学の入試では、日常生活では目にすることの少ない抽象的なテーマの文章が出題される。そのうえ、内容説明問題や理由説明問題、問題文全体の内容一致（不一致）問題に関しては、しっかり本文を理解していないと選択肢を選べないような設問がほとんどである。普段からややレベルの高い新書などを積極的に選んで読書をするといよい。

●新傾向問題への対策を

2025年度より大学入学共通テストに実用的な文章（報告書・資料等）を扱う大問が導入されたことを受け、梶山女学園大学の入試でも、日程によっては図表や複数の資料を読み解く「情報処理能力」を問う問題が出題されている。短時間で要旨を把握する速読力と実社会に即した論理的思考力を身につけるとともに、新傾向に対応した予想問題集などで形式に慣れておくとよい。